

まなびや

海を超えた師弟の交流

藤野先生と鲁迅

福井県と中国浙江省には、歴史的な深いつながりがあります。永平寺の開祖道元禅師が、浙江省寧波市にある天童寺の如浄禅師の下で修業をしたこと、また、浙江省紹興市出身の文豪・鲁迅があわら市出身の藤野厳九郎を生涯の師と敬愛し、『藤野先生』という作品を残したこと等です。

『藤野先生』は、中国の教科書にも掲載され、藤野厳九郎は、日本より中国でよく知られた存在となっています。国籍や立場の違いを超え、互いに尊敬し合った藤野厳九郎と鲁迅。二人の関係は、時代を超えて、今の私たちに大事なことを伝えようとしています。

▼出会い

一九〇四年、清国（現在の中国）の留学生、周樹人（のちの鲁迅）は、仙台医学専門



藤野厳九郎と鲁迅の像（あわら市記念館前庭）

学校で、藤野厳九郎の講義を受けることになります。

藤野厳九郎 → 鲁迅への思い

講義が始まって何日かたった時、樹人（鲁迅）は藤野先生に呼ばれた。「私の講義のノートがとれますか。」と聞かれたので、「なんとかできます。」と樹人が答えると、「持ってきて見せてください。」と言われた。二、三日して返ってきたノートを開いて見た樹人は、驚きと感激で胸がいっぱいになった。講義を書きとった中の文字や絵の誤りが、赤インクでくわしく訂正されていたからである。心のこもったこの指導は、樹人が藤野先生の講義を受けている間、ずっと続いた。

『藤野先生』（鲁迅）より要約

▼別れ

その後、鲁迅はあることをきっかけに、医学から文学の道に進むことを決心します。仙台医専を退学することを藤野に告げると、彼は鲁迅に一枚の写真を渡します。



藤野厳九郎が鲁迅に渡した写真の裏には「惜別」と書き記されていました。

惜別 藤野
謹呈 周君

▼晩年

鲁迅は、帰国後、作品を発表することで中国の社会問題に挑み続け、藤野は、福井に戻り、地域住民の健康を守ることに力を注ぎました。一九三四（昭和九）年、岩波書店は、鲁迅の作品集を作る際、どの作品を選ぶべきか尋ねました。鲁迅は「どれでもよい、好きなようにやりなさい。ただ『藤野先生』だけは入れてほしい。」と返事をしました。当時、日本では日清戦争に勝って以降、中国人を軽視する風潮がありました。藤野厳九郎は、漢学の素養があったことから、中国の文化を尊敬すると同時に、中国の人を大

鲁迅 → 藤野厳九郎への思い

なぜか私は、今でもよく彼のことを思い出す。わが師と仰ぐ人の中で、彼はもっとも私を感激させ、もっとも私を励ましてくれた一人だ。私はよく考える。彼が私に熱烈な期待をかけ、辛抱強く教えてくれたこと、それは小さくいえば中国のためである。中国に新しい医学の生まれることを期待したのだ。大きくいえば学術のためである。新しい医学が中国に伝わることを期待したのだ。私の眼から見て、また私の心において、彼は偉大な人格である。

彼の写真だけは、今なお北京のわが寓居の東の壁に、机に面してかけてある。夜ごと、仕事に倦んでなまけたくなるとき、仰いで灯火のなかに、彼の黒い、やせた、今にも抑揚のひどい口調で語り出しそうな顔を眺めやると、たちまち私は良心を発し、かつ勇気を加えられる。そこでタバコに一本火をつけ、再び「正人君子」の連中に深く憎まれる文字を書き続けるのである。

※中国語「正人君子」とは、高潔な人、人格者の意味ですが、ここでは反語として使われています。

『藤野先生』（鲁迅）より要約

事にしなければならぬという気持ちを持っており、親しみを持って鲁迅に接していました。そのため、二人の交流は2年程の短い期間でしたが、藤野の親切で熱心な指導は、鲁迅の脳裏に深く刻まれました。

【国際交流協会発行】
交流ふくい No. 74 より

特集展示
藤野厳九郎と鲁迅
9月29日まで開催中

特別展 関連イベント

懐かしい給食販売
揚げパンとお米のコース

▼各1個のセットで¥300
▼販売日…11…00～13…00

8月11日(日)・8月25日(日)
9月8日(日)・9月22日(日)

9月29日(日) 【数量限定】

▼注文方法…3日前までに

直接受付か、電話、FAX、

メールでお申し込みください

※詳細はHPをご覧ください

【福井市コッペ亭委託販売】